



**\*\*\* 滞在4年、今おもうこと \*\*\***

**アチャリヤ・アニッス (ネパール出身 高校3年生)**

みなさん、こんにちは。

私は高校3年生のアチャリヤ アニッスです。中学2年のときに、ネパールから日本に来ました。よろしくお願いします。

日本とネパールでは、いろいろな文化の違(ちが)いがあり、最初(さいしょ)のことはとても大変(たいへん)でした。この大変だったことをいくつか話したいと思います。

何が大変だったかという、外国から来た人は、だれでも同じことだと思いましたが、それは「言葉(ことば)」です。

話す言葉と聞く言葉は、友達と遊んだり、話したりしていると覚(おぼ)えられますけど、読んだり書いたりする時にそこに「漢字」があるともうダメです。日本語が「大変」で一番(いちばん)難(むずか)しく感じる理由(りゆう)です。

次(つぎ)に、私の国と比べて「すごい」と思ったことは、テクノロジーを中心に国がどんどん発展(はってん)していることです。でもバスや電車に乗(の)る時も乗ってからも、日本語がわからないとすごく心配でした。だから、電車なんかには一人(ひとり)では乗りませんでした。

次に文化ではなく、日本とネパールの自然についてです。これは日本に来てよかったことです。

中学三年の時、京都に就学旅行(しゅうがくりょこう)に行った時のことです。古いお寺がたくさんあって「すごいな!」と思いました。とてもいい感じでした。

また、京都からは山や森など自然が見えました。新幹線の窓(まど)からも、きれいな山や川も見えて、ネパールの山を思い出しました。

ネパールで見ていた自然と同じような自然を、日本でも見た時は、本当(ほんとう)にうれしくなりました。

テクノロジーもいいですが、私は、自然を見ているとホッとします。だから、この日本の美しい自然をもっともっと見てみたい、行ってみたいと思います。

以上(いじょう)、私が日本に来てから感じたことです。あまり上手(じょうず)なスピーカーじゃないですが、聞いていただき、ありがとうございました。





## \*\*\* 日本の教育の違い \*\*\*

河合 宏美 (中国出身)

皆さん、こんにちは！ 私は中国から来ました、河合宏美と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

今日は日本と中国の教育の違いを私自身の経験に基づいて、話していきたいと思います。「あなたは何人ですか」という質問に対して、「私は日本人です」「私は中国人です」というはっきりとした答えを持つ人もいれば、以前の私のように戸惑う人もいるかもしれません。なぜかという、私は小さい頃から、日中を行き来する日中ハーフですから。

子どもの頃は、日本に対するイメージはたくさんの美味しいものが食べられる、楽しいディズニーランドや水族館、しかありませんでした。覚えている日本語もお年玉をもらうための「明けましておめで とうございます」しかありませんでした。

中学校二年生になって、慣れた中国生活を離れ、日本の学校に通うことになりました。日本の学校では、英語科の先生の力を借りたり、日本語ができない私と漢字やお絵かきを通してコミュニケーションを取ったり、そして、2、3ヶ月に一度、「私の名前は中国語で何というの」という中国語ブームが来たり、私に対する優しさを常に実感できます。

私も日本語の勉強のために、日本のドラマや映画をたくさんみて、その中のセリフを真似したり、地区の日本語学級、土曜日の「なかよし会」などに通って、たくさんのボランティアの先生に助けられました。やっぱり中国とは学習雰囲気が全然違います。まず、地区単位の活動はかなり少ないです。そして、勉強や成績が断トツ第一位の中国の中学校では、自分の勉強で精一杯の人がほとんどでした。特に三年生になって、毎日のように夜の八時まで学校で勉強してました。常にプレッシャーに面と向かわなければいけない教育から、中国人の根性のある、少し気が強い性格を育ったのではないのでしょうか。

一方、単純な勉強以外に家庭科での料理学習、技術科での物作り、校外学習や修学旅行学習など、バリエーション豊富な学校生活を送れたことから日本人の想像力、優しい性格に繋がっています。

大学では、国際関係を学んで来た私から見ると、現代社会のグローバル化に連れ、私みたいにあらゆる経歴を持つ人が決して少なくありません。このような国際交流に通じて、異文化に対する理解を深め、独自のアイデンティティを作り上げるのは一番大切な事です。そして、自分と同じ立場の外国人を理解し、手伝える事は社会進歩するために大事な鍵になるでしょう。





## \*\*\* 自己紹介とバングラデシュについて \*\*\*

ベガム・シャハナズ (バングラデシュ出身)

皆さん、こんにちは。

私は、シャハナズです。バングラデシュからきました。日本に来て3年半になります。夫とひとり娘といっしょに日本に来ました。娘は、中学生です。夫は日本の会社で通訳として働いています。私たちは娘の教育とより良い将来のために日本に来ました

私の国バングラデシュはそれほど大きな国ではありませんが、人口がとても多いです。そして、ガスや石炭など天然資源がたくさんあります。「モスリン」と呼ばれる特別な布がとても有名です。また、女性は「ジュート」という繊維を使って美しい製品を作り、世界中に輸出しています。たくさんの衣料品も世界中に輸出しています。

有名な観光地は、世界で一番長い海岸がある「コックスバザール」です。世界最大のマングローブ林もあって、毎年多くの観光客が訪れます。

私は、自分の国を愛しています。でも娘のより良い将来のために、日本に住むことを決めました。

日本は、世界でもとても安全な国です。日本人はとても親切で、良い人たちばかりです。教育システムも非常に優れています。そんな日本に住んで、幸せに暮らしたいと思っています。そのためにも、日本語の勉強を頑張りたいと思います。日本文化も勉強して、日本のことをもっとよく知りたいです。

私のスピーチを聞いてくださった皆さん、ありがとうございました。そして、私が日本語を学ぶのを助けてくださった皆さん、私の国を訪れてくださった皆さん、ありがとうございました。

これで、私のスピーチを終わります。ありがとうございました。





## \*\*\* 日本で生活した 5 年間 \*\*\*

鈴木 英一（中国出身 高校 1 年生）

私は鈴木英一です。高校一年生です。2016 年に中国から日本に来て 5 年になりました。日本に来てから私は日本語教室と出会い日本語を沢山勉強してどんどんわかるようになりました。

小学校と中学校の時には、部活や校外学習、文化祭などいろいろな経験をしました。中国と違う環境の中で学習して、色々な友達と出会って本当に楽しかったです。例えば、私はバスケット部に入りました。その時の私はまだ日本語が上手くできませんでした。でも部員はすべて 5 人しかない小さい部だったので私は仲間と沢山しゃべることができました。だから中学でバスケットボール部活動はとても楽しかったです。

中学 3 年生になった頃コロナが広がり、その影響で京都への修学旅行ができませんでした。私は京都への修学旅行をとても楽しみにしていたので、とても残念な気持ちで卒業しました。そして今高校に進学し、部活は卓球部に入りました。みなさんはきつとなぜバスケットではなく卓球と思うでしょう。その理由は「高校のバスケット部は本当に超疲れる」と私は思ったからです、それで私は卓球部に入りました。卓球部の中には沢山面白い部員がいるので私はとても楽しく部活をやっています。

この日本の生活の中ではクラスメートや先生とあまり交流することができませんでした。授業の内容もすこしわかりませんでした。友達もなかなかできません。でも「なかよし」と「日本語教室」では日常の会話を教えてもらいました。学校からの宿題のやり方も教えてもらいました。だから、私はこの 2 つの教室に本当に感謝しています。

日本で生活した 5 年間は大変なことが沢山ありました。でも、「なかよし」や「日本語教室」の先生のおかげで私はこれから大変なことを少しずつ乗り越えてきました。そして、学校での生活はどんどん楽しくなりました。これからは大学に進学することを目標として、国語・英語・日本語などの勉強を努力してしたいと思っています。





## \*\*\* 日本語、難しい \*\*\*

王 伝宇 中国出身 (中学校 3 年生)

こんにちは！私は中国語の遼寧省からきました王伝宇です。よろしくお願ひします。私はいま中学 3 年生です。葛飾の青葉中学校に通っています。

私が日本に来たのは 2020 年 2 月でした。学校に入ったのは 2 年生の 6 月でした。同時に日本語学校にも入って日本語の勉強をしました。また、葛飾の教育センターでやっている「日本語ステップアップ教室」にも入り勉強しました。

私は、中国人なので、漢字の意味は見て少しはわかります。でも漢字の読み方がたくさんあって、日本語は難しいです。

中学校ではバスケットボールに入りました。もちろん勉強よりは、部活が大好きです。葛飾区では青葉中バスケット部は二回優勝しました。バスケットをやっている時は、日本語がわからなくても一生懸命できました。とくに昨年、初めて優勝したときは、みんなで喜びました。スポーツは、オリンピックと同じで、国が違っても、みんなで心が一つになれるので、私は大好きです。

今、私は中学 3 年生なので、高校受験があります。まだまだ日本語はよくわかりませんが勉強をがんばっています。一番苦手なのは社会です。でも社会の中で地理は好きです。今は作文も勉強しています。そして、高校に入ってもスポーツをやりたいです。できればバスケットを続けたいです。バスケット部がなければ陸上をやりたいです。そして卒業したら、体育関係の大学に入りたいです。

そのためにももっともっと日本語や学校の勉強をしっかりとやっていきます。通訳の先生、ボランティアのみなさん、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

これで私のスピーチを終わります。ありがとうございました。





## \*\*\* 今の生活と昔の生活を比べる \*\*\*

バルビー・シン (インド出身)

皆さん、こんにちは。私はバルビー・シンと申します。インドから参りました。今日のスピーチのテーマは「今の生活と昔の生活の違い」についてです。このことを皆さんにお話しします。

私は20年前に日本に来ました。日本に来た時は全然日本語が分からなくて、すごく大変でした。買い物に行っても電車に乗っても、何も分からなくて、大変なことがたくさんありました。

そこで友だちが、日本人の真似をして覚えたほうがいいんじゃないかと思って、「日本人の真似をしたらどう？」とアドバイスしてくれたので、やってみました。けれど、実際私が覚えたのは50代くらいの女性の会話でした。「それは、おたく…」「～でいいかしら」とか「わたしはねえ」などです。けれど、私がその日本語を使った時、相手がすごく笑ったので、ちょっとおかしいなと思って、そこで日本語学校に通って、私の悪い日本語を直しました。

2005年に会社の転勤で、私は葛飾に来ました。そしてここの「木曜日の日本語教室」に通い始めて、どんどん私の日本語は上手になりました。先生たちもすごく親切で、1対1で教えてもらい、私は日本語能力試験の3級に合格しました。

あの時は分からないことがたくさんありましたが、勉強を始めて、そしてどんどん勉強すると日本語が上手になり、分からなかったことが段々分かってきました。

私のマンションにNHKのBSアンテナが付いていて、一番はまったのは寅さんの映画でした。NHKではその時、「寅さん祭」をやっていて、48本全部放送があったので、毎週毎週見ました。そこで自分も芸能活動をやろうかなと思って、芸能活動を始めました。現在は色々な映画や、ドラマ、バラエティでテレビに出ています。

2年前に仕事を失って、今、東京でタクシーを運転しています。免許を取るのがとても大変で、特に学科が一番難しかったです。法律用語の漢字が分からず、何度も読んで覚えて合格しました。今もタクシー運転手として頑張っています。芸能活動も頑張っています。

私が言いたいのは、勉強が大事だということです。人生が終わっても、勉強は終わらない。それを皆さんに伝えたかったです。

ご清聴ありがとうございました。

